

令和4年2月21日

第3回 学校運営協議会議事録

日時:令和4年2月21日(月)13:30~14:30

場所:本校会議室

議事

- 1 校長挨拶
- 2 事務局より
- 3 協議、意見交換
- 4 謝辞、その他

1. 校長挨拶

日頃本校の教育活動にご協力いただき、ありがとうございます。

コロナの影響はあるが、マラソン大会以外の行事は予定通り実施できた。

生徒たちは、学業、部活動共によく頑張っている。

国際関係学科 10 校によるインターナショナルフェスティバルや LETS(10 校合同発表会)に出場。

課題研究、探究的な学びの成果発表の場として、プレゼンテーションやスピーチ等で活躍した。

2. 事務局より

(1)学校教育自己診断(保護者・生徒・教職員)について(首席)

例年通り、「学校教育自己診断」アンケートを生徒、保護者、教員を対象としてそれぞれ実施した。今年度は質問項目を精査して、質問数を減らした。また、アンケート方法を Googleform を利用した。そのため集計に関しては簡単になったが、回収率が昨年度より減少した。このことは次年度の検討事項として改善を図りたい。保護者・生徒ともに概ね良い評価を頂いた。保護者の要望の中で HP の更新について、ご指摘を頂いた。今年度、HP の更新が遅れたことと、枚高ブログ等の更新が少なかったことが原因だと考えられる。次年度においては、この課題を改善していきたい。

(2)令和3年度学校経営計画評価および令和4年度学校経営計画(承認事項)について(学校長)

○授業アンケートデータについて

昨年比ほぼ同等、もしくは上昇。他校と比較して極めて高い肯定率。教員の努力と、生徒が学校にコミットしていることが要因と考えられる。これを維持できるよう努めていきたい。ほぼすべての項目において、評価指標を上回っている。

【指標を下回ったもの】

1(1)ウ「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率

→授業見学の機会の拡充、一人一台端末活用により改善していきたい。

1(2)ウ「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率

→コロナ禍で教員と関わる機会が減ったことが考えられる。

2(1)ア「学校に行くのが楽しい」の肯定率

→微減。継続的に上げていく努力をしたい。

2(1)ア「学習と部活の両立を大切にすると雰囲気がある」の肯定率

→時間の使い方を工夫する必要がある。

○学校経営計画について

「令和3年度学校運営計画」の評価 別紙(資料2-1)

「令和4年度学校経営計画」別紙(資料2-2)

全会一致で承認

(3)進路について(進路指導主事)

別紙(資料3)

3年生はほぼ全員が進学志望。

ここ数年、AO入試や指定校推薦の志望者が年々増えている状況だったが、今年初めて志望者が減った。一般入試までチャレンジする生徒が増えた。

(4)オンラインによる学習支援について(首席)

別紙(資料4)

学級閉鎖や学年閉鎖によるオンライン授業の実施はなく、陽性や濃厚接触による欠席者への対応としてハイブリッド授業を行った。

3. 協議・意見交換

Q 学校教育自己診断の結果は生徒にも公開するのか？

A HPに掲載している。

Q アンケートの間「学校に行くのが楽しい」の否定的な回答がゼロになる努力をしてほしい。

A 努力したい。

学校から楽しさを提供してもらうだけでなく、自分たちで主体的に作り出していく年齢。そこをサポートしていく教育が理想。いつまでも提供される側ではないという意識を生徒が持つことも大事である。

Q 部活動の指導による教員の負担の工夫について、どうしているか？

A 勤務時間が月 80 時間超過の教員を年間延べ 20 人以下にすることを目標にしており、管理職からは個別に頻繁な声掛けを行っている。部活動を短時間で密度の高い内容にすること、仕事分担等で工夫している。

Q 成人年齢が 18 歳になったことにより、消費者、主権者、裁判等についての教育は行っているのか。

A 公民科や家庭科の授業内ですでにカリキュラムに入っている。長期休暇前の生徒指導でも啓発を行っている。継続していきたい。

Q 受験システムの保護者への周知について

受験システムを理解していない保護者も多いので、PTAと連携して勉強会や大学見学会等の機会を設けてほしい。

A 受験システムは毎年変わり、現在はより一層複雑化している。

1 学期に全学年が保護者集会において、進路部長よりシステムも含めて話をする機会を設けている。今後進路情報を一層伝えるよう工夫する。

→HPに受験のシステムや用語について説明する場があっても良いのでは。何度も説明することが大事である。

その他

○小学校でのハイブリッド授業について

昨年秋頃から教室にタブレット設置し、一日の授業をすべてオンラインで流していた。効果のある授業とない授業があり、現在は自宅で一緒に学習できるものに限定して配信し、参加が難しい授業の時間は自習にあてるなどしている。

○学校教育自己診断の結果、生徒の間10「人権について学ぶ機会がある」の肯定率が高いのに対して、教職員の問19「校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、話し合う機会がある。」の肯定率が低いことは、教員が人権意識を高く持っているとも読み取ることができる。

以上